

## 米・英5大学へ9人 -03年度長期交換留学生-



▲長期交換留学生に決まった9人(前列中央は大林センター長)

03年度長期交換留学生のうち米、英への9人が決定した。留学許可授与式が5月16日、生田キャンパスで行われ、大林守国際交流センター長が長期交換留学プログラム許可書と長期交換留学奨励生採用通知を一人ひとりに手渡して激励した。

イリノイ大学アーバナ・ジャンペイン校留学の高嶋陽子さんは「入学当時からこの留学プログラムに興味を持っていました。学びたいことは日米関係など主に政治関係。

専大で学んだ法律と、留学で学ぶことを生かして大学院に進学し、将来は国際機関で働きたいという夢を持っています」と抱負を話した。

ブリストル大学留学の野中陽介くんは「以前、短期プログラムに参加し、その時にこれだけの勉強でいいのか、物足りなさを感じ長期留学を目指しました。実現できて非常にうれしい。学びたいことは語学そのもので、シェークスピアなどイギリス文学はよく読んでいます」と話した。

[6月15日/ニュース専修13面]

英語の学習10人10語 第一話「検定」をペースメーカーに 三浦 弘(文学部教授)

国の内外には多数の英語検定があります。「実用英語技能検定(英検)」、企業が求める国際コミュニケーション英語能力のTOEIC、留学のためのTOEFLが有名です。知事免許に直結する「通訳案内業(ガイド)国家試験」や地域社会に貢献できる「ボランティア通訳検定」もお勧めです。

今や英語力が不可欠の時代です。検定をペースメーカーにして、学生のうちに英語力の基盤を作りましょう。標準的な目標は大学1年次頃までに英検2級を(私もそうでした)、そして就職活動が始まる前までに、英検準1級の合格です。同時にTOEICのスコアを伸ばしましょう。高校時代に英検準1級以上を取得している人は一層の難関に挑んでください。

受験には大胆さと緻密さが必要です。落ちたら恥ずかしいなどと思っははいけません。良い結果がでるまで、家族にも内緒にしておけばいいのです。実力よりも難しいレベルに挑戦してクリアすれば、大きな自信につながります。満点を取る必要は全くありません。また、試験には必ず傾向と対策があります。過去の問題をよく調べて、暗記と練習に励んでください。

20年前のこと、試しに通訳ガイド試験を受けたとき、私は受かるとは思っていませんでした。1次試験の合格通知が届いてからあわてました。2次・3次試験の準備期間が1カ月ずつかありませんでした。通信販売の対策教材を速達で購入し、必死で仕上げました。その時の免許取得の経験から、通訳法の英語学習への有効性もわかりました。

ボランティア通訳検定B級なら、英検2級程度の英語力があれば、短期間の努力で合格できます。講習はLL研究室でも行っています。お問い合わせはLL事務室スタッフまで。

[6月15日/ニュース専修13面]